

千代田区都市計画マスタープラン『改定素案（案）』に対する主な指摘事項

会議名称	第9回千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会
日時	令和2年9月11日（金）14：00～16：00
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ■地域別まちづくりの方針（第4章）について ■With コロナ、After コロナを踏まえたまちづくりについて
個別意見集約	個別に委員の意見集約を実施（9月25日（金）まで）

序章 千代田区都市計画マスタープランの千代田区の現況

〔計画改定の目的（改定の背景）について〕

- ウィズコロナ、アフターコロナをきっかけに気づいてしまった、明らかになってしまった色々な事柄について、大きなトレンド、社会的背景として書かれてもよいのではないか。
- コロナの話は全社会的な状況を見ると、これまでやろうとしていたことを、これを機会に推進しようとするという動きが出ている。都市の高度利用・更新の必要あるときに考慮すべきことがコロナを契機に進むのだとすれば、コラムではなく、本文に書くべきである。
- 都市計画法の枠組みとの関連のなかで、文化とは何なのか、深めなければならない。コラムに記載するなど検討していただきたい。

第1章 過去・現在から未来に向けて

〔計画改定の視点と進化の方向性について〕

- QOL がコロナを契機にある程度変わってきたのではないか。ウィズコロナ・アフターコロナの中で、空間がどのくらい色々な人たちの行為を誘発できるようになっているのかという点が重要である。
- 前提とする社会経済状況がどのように変化し、何に対応する必要があって計画を改定するのか、計画改定の必要性について具体的に明記する必要がある。

第2章 まちづくりの理念・将来像・基本方針

〔まちづくりの理念、まちづくりの将来像について〕

- QOL については、何をもって上昇したとするか、定義する必要がある。どれほどQOLが向上しているのかということが評価するには、指標を考えなければいけない。
- QOL の評価については、地区でとるべきである。地区でとれるデータがどれだけあるか、またはどんなものがあるかを併せて検討していかないといけない。
- 都市計画マスタープランは都市のことを考えるものだが、人間活動があるということは無視できない。そのあたりQOLも含めて検討頂きたい。
- 問題意識が見られない。都市計画は個々の事業者や住民の経済活動に任せていては保全／実現できないものを作り上げる仕組みだと理解している。

〔“つながる”都心を実現するまちづくり（土地利用）の基本方針について〕

- クリエイティブな力を醸成するという点について、これからどういう文化が生まれる場所なのかという点が選ばれるまちになる上で大事なことであり、各地域にどう反映されているかも確認していただきたい。
- 基本方針 1 の選択肢として、保全の考え方が希薄である。
- 「展開のイメージ」は「方針を実現するための具体策」とすべきではないか。
- 「展開のイメージ」に現行 MP からの継承・変更を書くのは不適切。何をどう変えるのか、この MP による方向転換は何なのかはきちんと見せるべき。現在の時間断面ではなく、時間軸の感覚／都市の歴史を積み上げている感覚での記載が必要である。

〔首都東京における千代田区の骨格構造について〕

- 都市骨格軸の意味や構成がわかりにくい。「軸」という概念自体がわかりにくい。
- 「環境創造軸」は「軸」なのか。また、「環境創造軸」と「都市機能連携軸」「エリア回遊軸」は同レベルで論ずるものなのか疑問がある。
- 「都市機能連携軸」「エリア回遊軸」はその空間像がそれぞれ明確になるように記載を強化し、その必要性や、どんな差があるのかを補足説明なしで理解できるようにする必要がある。
- 目標とする拠点の性質と実現施策が混同された記述、日本として修文が必要な記述がある。
- エリア説明（表の中の記述）は文章が長い。区民にわかる日本語にすべき。

第3章 テーマ別まちづくりの方針

〔共通事項〕

- 課題意識が現行制度への対応や、短期的視点に留まっており、2040 年を想定した中長期の記述がない。

〔テーマ 1：次世代の魅力ある「都心生活」について〕

- 方針図がないのはなぜか。

〔テーマ 2：居心地のよい空間の多様性について〕

- 道路空間をカフェ等で利活用しようとする、現状ではかなり規制が厳しい。ウィズコロナに対応して推進するのは、民間事業者だけでは難しいので官民連携で進めなければならない。
- スマート化を考えて、公共空間の活用とともに、どこの店舗でも全てスマホで注文し、決済するような先端的な実験を進めることで、目立つ千代田区になれる。
- 千代田区は飲食店の行列を売りにしてきたところがあるが、三密を避けることを考えてもよいのではない。むしろ 2 時間くらいしっかりいられるところを選ぶ。QOL という点でそのあたりも検討して頂きたい。
- エリア回遊軸の役割はないのか。

〔テーマ4：駅・まち・みち一体の次世代交通について〕

○方針図と附図を併記した理由はなにか。附図の考え方を実現ということか。都市計画マスタープランにこの図が記載される意味は大きいので、説明が必要である。

〔テーマ5：障壁のない多様な活動と交流について〕

- コロナ渦で外国人が減っているが、国際人がいろんなスタイルで集えるのも千代田区の特性だということもあるので、そこも含めて検討頂きたい。
- 方針図がないのはなぜか。
- コミュニティの要素が抜けている

〔テーマ6：災害対応力（防災力・復元力・継続性）について〕

○方針図のベースが他と異なる。

〔テーマ7：都心の快適性と脱炭素、エネルギー利用について〕

○方針図は、どんな方針を示しているのか本文と照らし合わせた判読ができない。また、軸の表現が他の図と異なる。

第4章 地域別まちづくりの方針

※第9回検討検討部会の議題のうち、地域別まちづくりの方針（第4章）については、主に、各地域を見渡した一般的なご意見をいただいた。

※そのため、“つながる”都心を実現するまちづくり（土地利用）の基本方針（第2章）及びテーマ別まちづくりの方針（第3章）と関連づけて指摘事項を整理した。

〔土地利用について〕 ※第2章 “つながる”都心を実現するまちづくり（土地利用）の基本方針関連

- 千代田区全体で、地域別に超高層を想定する場所とそうでない場所のメリハリを示すべきである。
- リモートでオフィスが不要になったり、大企業になるほどリモートが進んだ状況をどう見るかなど、今後、地域の課題として出てくる。
- 中層・中高層の街並みについて、全体として不整合がないようにチェックした方がよい。
- これまでの成長基調、自由主義の中で市場に任せてやってきたものが、同じようなかたちで延長するのではない都市計画マスタープランをつくっていかなければならない。

〔次世代交通、付置義務駐車場について〕 ※第3章 テーマ3 関連

- 付置義務駐車場のあり方については、神保町だけでなくいろいろなところで検討したほうがよい。
- 自動運転、MaaS など、モビリティが大きく変化するものをまちづくりに取り込まなければならない。付置義務駐車場に関して、試行的な社会実験をしながら、全国に先駆けて、大都市における都心部の駐車場空間の機能をバージョンアップさせる取り組みをしていくべきである。
- まちづくりと一体的に次世代交通の技術やシステムの実装化に向けてビジョンをつくることを宣言しておくべきである。秩序あるかたちで望ましい機能をさせるための仕組み（プラットフォーム）を、地域が考えているということをご宣言したほうがよい。

〔環境・エネルギーについて〕 ※第3章 テーマ7 関連

○紀尾井町や神田駿河台、大手町・丸の内・有楽町・永田町地域には面的エネルギーネットワークが整備されており、貴重なインフラ資源として、方針図にも記載していくとよい。

〔まちづくりの主体、目線について〕 ※全体及び第5章 都市マネジメントの方針関連

○区民、事業者、民間セクターの方々へのメッセージであることが伝わるような記載とすると、メッセージが伝わる。

○千代田区の場合には大企業があるが、区民目線を大事に考えていかないと都市計画マスタープランにならないと思う。

○ビジネスといっても、今までの大企業ありきのビジネスに対して、コミュニティと起業家を含めてどのようなかたちになっていくのかという点は、新たな千代田区のひとつの顔となっていくところだと思う。

〔個別地域の指摘事項について〕

麹町・番町地域：

○現行都市マスの「中層」「中高層」の地区による書き分けを、一括して「中高層」にすることについては、エビデンスをもとにきちんと審議するべきである。

飯田橋・富士見地域：

○現状で高層ビルがあるが、千代田区としてこれを推進するという立場でよいか。これ以上建てない」という選択肢を取り得る。

○外濠の水面を保全し水質向上の努力をすることも可能な範囲で記載すべきである。

○可能であれば隣接する新宿区との連携，都の連携も記載してほしい。

神保町地域地域：

○⑦環境創造軸（日本橋川沿い） 日本橋川に沿った連続的な水辺や歩行空間、街並みの整備を目標とすることを強調するべきである。

第5章 都市マネジメントの方針

※指摘事項は特になし